

弘法大師とあまのじゃく～酒井明 説話集 2※～

今日は、あまのじゃくが荒瀬の山で弘法大師の邪魔をした話をしてみよう。

宿毛の町から中市の橋を渡って左へちいに行ったところが荒瀬じゃが、昔からお寺があり、お地蔵さんのお祭りにゃあ大勢人手があつてにぎやかなもんじゃった。昔からそんなもんを建てるにゃあええとこじゃったんじゃろう。

弘法大師もここの谷に目をつけたと言うこっちゃ。

なんせあちこちまわられた大師が目えつける位じゃから、よっぽどええ条件のとこじゃったにちがいない。

そこで「ここにゃあ小谷が100あるはずじゃ」と数えてみたが99谷しかない。

100あったら言うことなしに立派な霊場と思うた大師じゃったが、何辺数えても、どひたち99しかない。

そんなはずはないと日をおいてみてもやっぱり99しかない。

そこでとうとうさすがの弘法大師もあきらめて他所を探してみることにしたというが、実の所は100立派にあったそうなが、「あまのじゃく」ちゅう、わりことしが小谷の1つを隠して知らん顔しちよったので、99しか見えなんだというこっちゃ。

あまのじゃくは人間にも思わんとこでちょっかい出して困らひて喜んじよるようなもんらしいが、弘法大師程のお方がちょろまかされることもなかろう。こんなもんがおる所よりおらん所の方がええと思うて、やめられたのかも知れん。

そんでとうとう大師の開かれた霊場が出来んすくにすんでしもたちゅうこっちゃが残念なことよのう。

そんなことから千年あまり過ぎたちゅうに、あまのじゃくはやっぱり生きちよるらしくて、ときたまそいつの仕業らしいことを耳にすることがあるのう。



※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。